

ふれあい看護体験 2009

本院では7月31日(金)、宮崎県下の高校生を対象に「ふれあい看護体験2009」を実施し、高校生23名の参加がありました。

この取組は、看護師や医師を目指す高校生に医療の現場を実際に体験し、進路の参考にしてもらうことを目的としたものです。

高校生のみなさんはそれぞれの病棟で、担当の看護師から指導を受け、食事の配膳や入浴の手助けなどの様々な看護業務を体験しました。

体験を終えた高校生から、「今まで見たことのない医療の現場を自分自身の目で直接みることができ、看護師になりたいという気持ちがとても強くなった」「患者さんからの“ありがとう”の言葉の重みに感動した」などの感想が寄せられました。



看護を体験する高校生

JICA地域別研修「中東地域女性の健康支援を含む母子保健方策」

6月23日(火)から約1ヶ月にわたって国際協力機構(JICA)地域別研修「中東地域女性の健康支援を含む母子保健方策」が実施され、ヨルダン、イエメン、シリア、アフガニスタンの看護師や助産師、看護教員ら6名が本学医学部や附属病院、県内の医療機関等において研修を行い、日本の保健・医療システムや育児医療等の現状を学びました。



研修に参加されたみなさん

マンドリンコンサート

8月25日(火)午後3時から本院1階外来ロビーにて、プロムナード宮崎によるマンドリンコンサートが開催され、今年で3回目となります。このコンサートは患者さんやそのご家族の方に憩いの一時を過ごして頂こうという目的で行っております。ご来場いただいた方々は、なかなか耳にすることのない生のマンドリンの優しい音色に聴き入っておられました。

本院では年に数回、院内コンサートを開催しており、次回は11月14日(土)午後2時から医学部学生による室内楽コンサートを予定しています。どうぞお越しください。



プロムナード宮崎のみなさん

第一内科は本院の開院以来、循環器疾患、高血圧疾患、腎臓疾患、消化器疾患と内科疾患の中でも頻度の高い疾患を専門に診療を行っています。

循環器（心臓疾患、大動脈疾患）診療は、急性心筋梗塞の急性期集中治療をはじめ、この原因である冠動脈の狭窄病変を経皮的にバルーン（風船）拡張する治療や、必要に応じてステント留置術を行っています。また、新しい治療としてエキシマレーザー冠動脈形成術に取り組み、高度先進医療として実施中です。さらに再発防止のために、脂質異常症、高血圧症の管理も続けています。次に循環器診療の代表的疾患である不整脈に対しては、従来からの抗不整脈薬物療法、恒久的ペースメーカー植込み術に加えて、頻拍性不整脈に対する冠動脈カテーテル焼灼術という治療を行っています。これは、心拍を正常に作るための心臓内にある伝導路（電気の通り道）の他に発生した副伝導路が不整脈の原因となっている場合に、これを高周波で焼灼し心臓内の電気の流れを正常に戻す治療です。薬物療法だけでは、繰り返し起きていた不整脈も薬物が不要になる方も多くいます。WPW症候群と言われる疾患もこれに当たります。非常に脈が速くなる発作が起きた経験のある方は御相談下さい。突然死は、社会的問題であり、AEDと呼ばれる致死的不整脈解除の器械が普及し始めましたが、いづどこにでもある訳ではありません。この危険が高いと判断された心臓疾患の方には、必要により植込み型除細動器を体内に留置する治療も行われています。難治性疾患の一つである肺高血圧に対する診断と治療も増えてきました。

高血圧診療は、次々と開発される降圧剤について世界中で研究が進み、最新の情報をもとに外来治療を続けています。当科では本邦

における高血圧診療を常にリードし、国内の治療指針を決める委員を続けている医師から診療を受けられます。特別な原因のある2次的高血圧を探し出す診療は、大学ならではの診療で、腎血管性高血圧に対しては、循環器医師と共同でステントによる血管拡張も行っています。

腎臓診療は、腎臓組織確認（生検）を確認し、的確な治療選択を続けています。ネフローゼ症候群の治療で特別なものとして、LDL吸着療法も行っています。また、透析中の方に合併した様々な疾患は全科にわたるため、透析患者さんがどこの診療科に入院されても前の施設と連携し、血液浄化療法部として透析を受け持ち、診療を陰で支えています。さらに、全身疾患に合併した急性腎不全でも担当科と共同で診療の補助を続けています。

消化器診療は、がんセンターで学んだ医師が、早期癌に対する内視鏡治療（内視鏡的切開剥離術）を行っています。悪性腫瘍に対する化学（薬物）療法、放射線化学療法は、外科や他の内科とともにいき、年々外来化学療法も増加しています。病気の確認が難しい小腸について、造影検査とともに内視鏡検査が行えるようになってきました。炎症性腸疾患と呼ばれる難治性腸疾患の診療は、潰瘍性大腸炎に対しては、白血球除去療法、ステロイド強力静注療法等の従来治療に加え、シクロスポリン持続療法、ベクロメタゾン注腸療法を行ってきましたが、最近タクロリムス療法も保険認可となり治療選択が増えてきました。クローン病のダブルバルーン小腸内視鏡を使用した狭窄部の拡張術にも取り組んでいます。

頻度の高い疾患を学べる当科は、多くの若い医師が研修を行う場でもあり、多くの患者さんに御協力を頂いていることを、この場を借りて感謝致します。

第一内科病棟の紹介

5階西病棟 副看護師長 川崎 由美子

第一内科の病棟は5階の西病棟にあります。病棟のナースステーションには心電図モニターが数台設置されており、大小のモニター合わせて、一度に18人分の心電図が観察できるようになっています。

入院されている患者さんは、主に循環器・高血圧、腎臓、消化器疾患の方々です。循環器疾患では、狭心症、心筋梗塞、不整脈、心不全の検査や治療、腎疾患では、腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、透析療法の治療、また、消化器疾患では、炎症性腸疾患やがん化学療法などが行われています。

病棟では様々な病気を抱えた方達が入院されており、私たち看護師は、そのような患者さんやご家族の気持ちをできるだけ汲み取れるよう、患者さんの意向に沿った看護を目指して、日々努力を続けています。

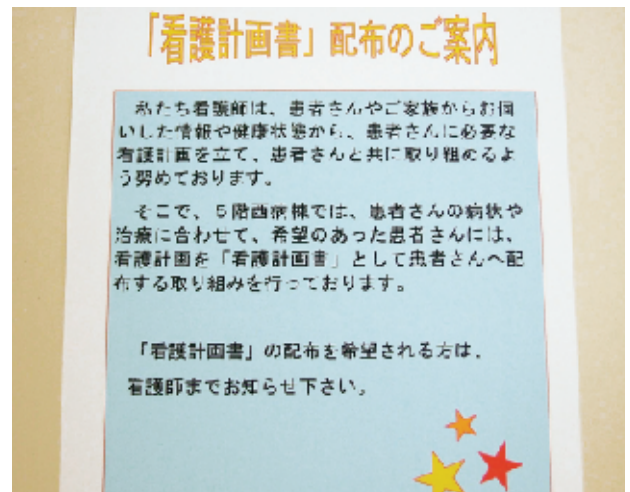
その取り組みの一つとして、平成16年度から「看護計画書」を配布するという活動を行っています。これは、私たち看護師が、患

者さんやご家族からお伺いした情報をもとに、患者さんの健康状態をふまえて、必要な看護計画を立て、それを「看護計画書」という書面にして手渡すというものです。この「看護計画書」の活用により、私たちは、患者さんやご家族と話し合いながら一緒に目標を設定し、必要な看護計画を立て、それぞれの健康目標に向って共に歩いていくという意識を高めることができるようになりました。患者さんからも「看護計画書」を使用して良かったという意見も多くいただいており、取り組みに対する成果はある程度得られているのではないかと考えています。

第一内科看護師の中には、呼吸療法認定士、透析技術認定士、緩和ケア認定看護師など専門的な資格を持った看護師もいます。今後も、医師と連携を取りながら、専門的で、患者さんやご家族の気持ちが汲み取れるような、より質の高い看護の提供を目指して、頑張っていきます。



ナースステーション内の心電図モニター



「看護計画書」配布のご案内

輸血部の紹介

輸血部 久富木 庸子

輸血部は昭和52年10月、開院にともない検査部内に輸血室が設置され、輸血管理室として始まりました。昭和63年に輸血部として独立し、今日まで活動しています。輸血部には常時、検査技師2名、看護師1名、医師1名がおり、血液型検査業務や、後述する自己血業務にあたっています。

輸血部の主な仕事は、血液型の検査と、輸血に使われる血液製剤の保管、管理です。安全な輸血のためには、患者さんの血液型の検査と交差適合試験とよばれる検査（患者さんの血液と日本赤十字（日赤）の血液製剤をあわせて、反応しないかどうかを判定する検査）が必要です。現在、輸血部では、年間約1万件の検査を行っています。（図1）血液型にはABOのほかにもRhと呼ばれる種類もあり、これ以外にもいろいろな血液型があります。輸血を行うのに、最も重要なのがABOの血液型です。（図2）皆さんは自分の血液型をご存知でしょうか。日赤の血液製剤

には、血液型により色分けされたラベルが使用されています。A型は黄色、B型は白色、AB型は桃色、O型は青色です。

輸血部のもう一つの大きな仕事に、自己血の採取と保存があります。自己血輸血とは、予定がたてられる外科手術の時に、予想される出血量に見合う血液を、手術日までに患者さん自身から採取、保存しておき、手術中にいざ輸血が必要となったときに、貯めておいた患者さん自身の血液を輸血するという方法です。昨年度本院で自己血輸血をされた患者さんは、延べ人数で569名、総採血量約36万mlです。これは日赤の献血者907人分、500mlのペットボトル約750本分に相当します。また、昨年度外科手術時に使用した血液製剤の約5分の1を自己血が占めていました。自己血輸血は日赤の献血による血液製剤の節約にもなりますし、もともと自分の血液ですので、副作用がほとんど起らない安全な輸血治療法として厚生労働省も推奨しています。今年のようにインフルエンザが大流行すると、日赤の献血者が減少してしまうため、血液製剤が十分量確保できるかどうか心配なところですが、現在輸血部では、日赤の血液製剤の確保に少しでも手助けできるように、例年にも増して、自己血輸血を推進しています。

また、輸血部では小児科や血液内科で行われる末梢血幹細胞移植用の造血幹細胞の採取、保存などのサポートもしています。造血幹細胞とは、血液の中にある赤血球、白血球、血小板などの基になる細胞のことです。毎年15例から20例の採取が行われています。（図3）今後は診療科の先生方と協力して、このような細胞治療などの分野にも活動を広げていこうと考えています。

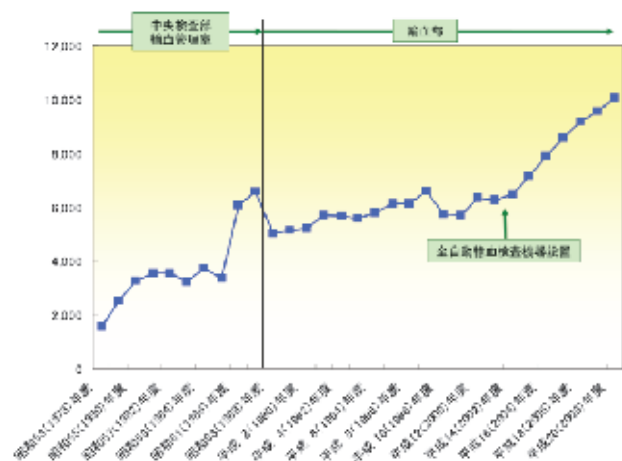
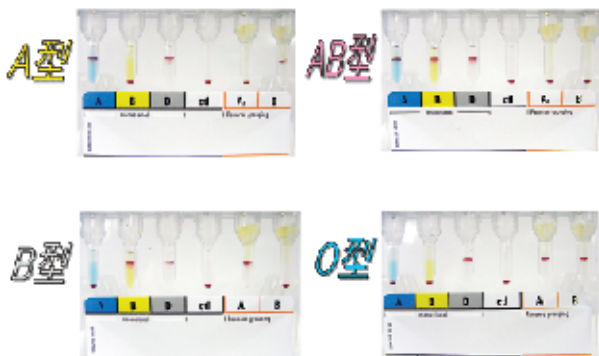


図1. 輸血検査件数の推移



*各血液型の色分けは、日本赤十字社の輸血用血液製剤で使用している血液型の色分けに準じます。

図2. 全自動輸血検査機器による血液型検査判定例



図3. 末梢血幹細胞の採取風景

「宮崎ファミリーハウス」が誕生しました

小児科 上村 幸代 盛武 浩 布井 博幸

子どもが病気になり入院や長期の療養が必要になると、子どもの病気の心配だけでなく、二重生活の経済的負担や残された家族の心配など、筆舌に尽くしがたい負担がのしかかります。病院が自宅から遠方である場合、通院やお見舞いに訪れる家族の身体的負担も大きく、安価な宿泊施設があることで救われる場合も少なくありません。このことから、国内では1992年に東京に宿泊施設が設立されて以来、同様の施設が全国に広がりを見せています。

この度、高村マンション オーナーである高

村一男氏のご厚意により、本院などの病院に入院・通院される子どもの患者さんと家族のための宿泊施設「宮崎ファミリーハウス」を設立する運びとなりました。

このハウスは受診・入院・滞在の必要な方、外出・外泊される子どもの入院患者さんとそのご家族（主治医の許可が必要）がご利用になれます。空室がある場合は大人の患者さんの利用も可能です。管理運営は医療関係者・ボランティアが協力して行っています。



居室



明るいキッチン



周辺地図

場所は、本院から車で約20分の宮崎市大淀川沿いにあり、橋橋南詰バス停を利用すれば乗り換えなく本院と行き来ができます（橋橋南詰バス停まで徒歩8分）。大淀川河畔まで徒歩1分という恵まれた環境が、闘病に疲れた心と身体を癒してくれるものと思います。また、オーナーのご厚意で24時間換気システムの設置を含めた全面リフォームをして頂きました。

ハウスには6畳和室の個室2部屋とリビング、キッチン、バス、トイレ等の共有スペースがあり、日常生活に必要な備品と消耗品はほとんど用意してありますが、お食事は各自でご用意頂くこととなっています。食材を持ち込み、ハウスで調理することも可能です。

施設では、1つ屋根の下で同じ境遇のご

家族同士が励まし合う場所であると同時に、病気によって離れ離れになりがちなお家族が、支えあって困難をのり越える場となればと願っております。

宿泊費は1家族1個室1泊利用で室料800円、1寝具利用につきリネン代200円です。ただし患者さんご利用分のリネン代は無料です。駐車場も1室につき1台無料で駐車が可能です。（H21.10.1現在）

ご利用希望の方は下記までお問い合わせください。

宮崎ファミリーハウス代表

牟田寿恵さん 090-3011-6211

なお、本院に入院・通院されている方は4階東病棟ナースステーション窓口に直接お越しいただいても結構です。

宮崎大学医学部公開講座「食と健康:あなたは大丈夫ですか!」を開催

宮崎大学医学部公開講座が、7月13日(月)～17日(金)の5日間にわたり開催され、県内各所から115名の参加がありました。本学教員5名が「食と健康」をキーワードに、食の安全、生活習慣病、たばことお酒、運動や睡眠について講義を行い、受講生から、「どの講義も興味深く、わかりやすかった」「食に関する正しい知識の大切さを再認識した」「この講義で学んだことを生活に生かしていきたい」などの感想が寄せられました。

来年度もこのような公開講座が開催される予定ですので、多数のご参加をお待ちしております。



講義を熱心に聴講する受講生

本院の理念

良質な医療を提供するとともに、医療人の育成と医療の発展に貢献し、患者さんに信頼される病院を目指します。

基本方針

1. 患者さん中心の最適な医療の実践
2. 地域の要望にこたえる医療の実践
3. 先端医療の開発と提供
4. 人間性豊かな医療人の育成
5. お互いを尊重し、チームワークのとれた職場環境の整備

患者さんの権利

～本院は患者さんの権利を守ります～

- 誰でも良質な医療を公平に受けることができます。
- 診療の内容などについて、あらかじめ十分な情報と説明を受け、理解した後、同意あるいは拒否を選択する権利があります。
- 診療録に記録された自分の診療内容について、本院の規則に沿って、情報の提供を受ける事ができます。
- 診療内容その他についてあなたの情報は保護されます。
- 患者さんの尊厳は、医療行為のあらゆる場面において尊重されます。

編集事務

宮崎大学医学部附属病院 地域医療連携センター

〒889-1692 宮崎県清武町大字木原5200 電話(0985)85-9165